



THE対談

小原域嗣×中野秀和

今回は、スタンプのスクールクラスについて、スタンプ代表・くーちゃん先生こと小原域嗣先生が、期待の若手・中野秀和先生と対談していきます。長くスタンプスクールを担当してきたくーちゃん先生が、独自の目線でアドバイスなどをしていきたいと思えます。この対談を読んでいただくことで、皆様のスタンプスクールへの関心や、理解が深まればと思えます。また同時に、中野秀和先生がどんな魅力の持ち主なのか、少しでも知っていただけたら幸いです。ぜひこの対談をお楽しみください。

小原 ひで先生、よろしくお願ひします。

中野 こちらこそよろしくお願ひします！

小原 今日は、今年でキャリア3年目を迎えるひで先生が、どのような心構えで取り組んでいるか、聞かせてもらえたらと思ひます。初めてのパープルクラスはどうですか？

中野 良くも悪くも、驚きの毎日でした！驚きの連続！

小原 良くも悪くも？笑 じゃあ、まず良い方から聞こうかな？

中野 2年間、2歳児クラスを担当して、そこらからいきなり1番上のクラス。子ども達の活動の幅が広がったことで、遊びの幅も広がったし、ダイナミックになりましたね。動けて楽しい！驚いたし、感動しています！

小原 それが良い方ってことだね。じゃあ悪い方は？笑

中野 悪いというか、悩んでいる部分。やっぱり年長さんということで、遊びの中でうまれる、心のぶつかり合いというか…。

小原 心のぶつかり合い！いい言葉だね！

中野 子ども同士の気持ちがガンガンぶつかり合うので、そこへの解決の手助けというか…。子ども達に寄り添いつつ、できる限りみんなが満足する形でそれをまとめられるようにする。一人一人の気持ちに寄り添うことは、なかなか難しい。ということに、自分が気がつきました。

小原 悪いというか、自分自身が気づいた部分だね！

中野 はい。なんていうか、心を育てたいなっていうのが、自分の中であって。思いやれる心とか、優しい心を持つるようになるための言葉がけに、日々悩んでいます。伝え方って難しいですね。寝る前にひとり反省会をするのが日課です。笑

初めてのスクールクラス、しかも最上級生ということで、楽しい中にも苦悩はあるようです。ここはベテランとして、少しでも力になってあげられるといいんですが。

小原 なるほどね！自分も長くパープルをやっている中で、最終的に伝えたい部分はそこだね。スタンプっ子はそれぞれにとっても素敵な個性があるから、誰が正解なんているものではなくて。逆に、どの子も同じように持っていて

欲しいものが、思いやりの気持ち。それは、何年も言い続けてきたことかな。でもそれって、大人でも難しいことじゃないですか。パープルとは言っても、まだまだ6歳。その時に言って伝わる子もいれば、長く付き合っていく中で、小学生になって落ち着く子もいるし。パープルの先生として、例えば小学生までに！って、力みすぎるのもよくないと思うよ！長い目で子どもの成長を考えてあげることも大事だよ。でも、良いところに目をつけているね！

中野 ありがとうございます！

小原 心を育てたいっていうけど、それはあくまでも外部からもたらされる影響で、やっぱり子ども達自身に成長してもらいたいって思うんですよ。そこで、自分の好きな言葉で、よく子ども達に伝えてきた言葉が、

「心を鍛える」という言葉。実は、高校の先生の受け売りなんだけど。笑 例えば、マラソンの時や崖のぼりのときに、辛くなったら「心を鍛える」と唱えろと、諦めそうになってる弱い自分を奮い立たせることができる。お友達に対してイヤなことをしてしまいそうなとき、「心を鍛える」と唱えろと、相手がどういう気持ちになるのか考えることができる。

中野 おお！そういうキャッチフレーズがあると伝えやすいですね！

小原 良くも悪くもの良い部分は、ひで先生持ち前の奇抜な発想で、楽しいことや新しい活動をたくさん取り入れていって欲しい！そして、その悪くもの部分は、決して悪いわけではなくて、マラソンや崖のぼりに代表されるように、むしろ徹底的にやっていくことで、心は強く、心のぶつかり合いの中で、優しい子ども達も育っていくよね！それがいわゆるスタンプっ子だと思うよ！

中野 なるほど！ありがとうございます！それにしても、毎日充実してます！充実感がすごい！毎日ぐっすり眠れます…

小原 笑

引き継がれてきたスタンプ魂を、私たちはよく理解し、担任としての個性をふんだんに注ぎ込んでいくことで、常に新鮮な活動ができると思っています。

スタンプの伝統を大切にしながら、時代にあった進化を遂げ、たくさんの先生と子ども達にスタンプ魂を伝えていきたいと思ひます。 スタンプ代表 小原域嗣



(左) 小原域嗣先生
(右) 中野秀和先生

大前先生が

子どもの「今」を見つめる



「プロセスを評価」

こんにちは！スタンプ2歳児クラス、オレンジ帽子担任の大前智也です。今年度も始まって、約4ヶ月が経ちました。子ども達も新しい環境に慣れ、安心して楽しい日々を過ごしています♪

梅雨も明け、ここからの季節は楽しい「川遊び」が続いていきますね。2歳児クラスの子も達が活動する川は、月齢にあった、適度な浅瀬です。初めての活動日から「思い切り遊べる子」もいれば、躊躇して「お水に入れない子」など、様子は一人ひとり様々。「思い切り遊べる子」、もちろんとっても素敵ですね♪じゃあ、「お水に入れない子」は？決して悲観することもないですし、その子が、川の様子や遊んでいる子を観察した上で出した答え。とても凄いことだと、僕は思います。

さあ、そこからその子と僕の向き合う時間です♪「○○くん、お水ちょっとこわいよね。」とその子に問いかけると、首を縦に振ります。「そう思っているんだよ。」という、先生が共感してくれたことで少し表情が柔らかくなりました。「じゃあ、お水のそばのキレイなお石を探さない？」と言うと、「うん！」と僕の手を取り、川岸に来てくれました。笑顔で一緒にお石を探したその子に、「すごいね！とってもキレイなお石見つけられたし、こんな川の近くまで来ることができたね！」と伝えると、入らないと決めていたのに、川のそばで遊んでいる自分に嬉しくなってきた様子♪

「入れなかった」「できなかった」と、子どもが悲観するよりも、入れなくてもそこまでのプロセス（過程）を評価してあげることが、とても大切だと思います。結局その子は、2回目の「川遊び」で、自ら川に入っていました。何かを成し遂げたときに、評価してあげるだけでなく、子ども達一人ひとりのプロセスに目を向け、サポートをし、評価してあげる！そして、困難を乗り越えたとき、次の困難を乗り越える、「生きる力」に繋がると思います。

佐藤が

思う！「遊び」と「学び」は一对！



『冷暖自知』

目の前に透明のコップに入った水があります。あなたは、その水が冷たいか、暖かいかわかりますか？事実を知る方法は、その水に触るか、飲むしか方法はありません。何が言いたいかというと、「何事も体験してみないと、自分で本当に知るといことはできない」ということです。

小学生を対象にした授業で、よく火起こしをする機会があります。別に、火起こしができるからといって、そのスキルがものすごく役立つかと言われると、決してそうではないと思います。しかし、火起こしを実際にやってみることで、火の暖かさに気がつき、「こんな使い方できないかな？」という発見が生まれます。また、扱い方を間違えれば火傷をし、痛い思いもします。そんなときは、「次からは気をつけよう」、「火を扱うときは軍手をしないとイケないな」など、失敗から学ぶこともあります。

私が子ども達に伝えたいことは、「まずはやってみる！」ということです。そこには、必ず新しい発見や気づきがあるはず。もしかすると、そこから自分の自信に繋がったり、好きを見つけれたりするかもしれません。かといって、はじめの一步を踏み出すのは、とても勇気がいることです。少しでもチャレンジしやすい環境や、場所を示してあげるのも、私たちの使命だと感じております。まずは、先生が全力で楽しむ、子どもと先生の関係性をしっかり築くなど、子どもが安心できるようにする事こと非常に大切です。

遊びから学びがあるように、何事もまずはやってみないと、自身の経験や成長には繋がりません。学校の授業もそうですよね。算数の解き方を先生が説明するだけでは、わかった気にはなりませんが、本当には理解できていません。だから、練習問題を解き、そこから知識を深掘りしていきます。

スタンプ小学校では、「まずはやってみる！」。そして、「何事も楽しむ心」を育てるよう、様々なプログラムをご用意しております。はじめの一步はすごく勇気が必要ですが、その先には必ず楽しい未来が待っているはず。みなさんの挑戦、お待ちしております！！

筒井

が遊びで育む ココロとカラダ



夏になり、昆虫や川の生き物を嬉しそうに持って帰る子ども達を、よく見るようになりました。生き物大好きなこうた先生としては、めちゃくちゃうれしい限りです！

今年度、私のクラスでは、「生き物を育てる」ということを子ども達と一緒にしています。魚やスッポン、カブトムシ、クワガタ、カナヘビ等、多くの生き物と生活しています。その中で、子ども達の反応が嬉しかったことがあり、ぜひ紹介したいと思いました。

まずは、子ども達に生き物への愛着を持ってほしいと、みんなで考えた名前を、コイやクワガタにつけました。名前をつけた次の日、水槽やケースの近くには多くの子ども達がいきました。「ごはんあげたい！」と言ってくれるようになった子もいました。それから、子ども達は、トカゲやヤモリを育てる環境を考え、実際に作っていました。また、捕まえてきた名前分からない生き物の種類や、何を食べるか調べようと図鑑を広げていました。水槽の水替えを手伝ってくれたり、ご飯をあげてくれたりと、子ども達が自分でできることを探して、自分たちでできるようになってきました。

子ども達には、生き物を飼う面白さや、大変さを伝えられたいなと思い、2つのテーマ、「調べる」「生きている」が、自分の中にあります。子ども達は、図鑑や本を使って「調べる」という力がついてきました。生きているということについては、まだまだ愛着の持ったものだけを考えているのではないのでしょうか。大量に捕まえてきたザリガニやカエル・・・この量を育てるには？と、まだまだ考えることは多くあります。難しいことですが、少しずつ子ども達に伝えられるようにしていけたらいいと思っています。

最後に、子ども達とやった「図鑑で調べてみよう！」をしてみましょう！この生き物の名前は何でしょう？使えるのは図鑑のみ！これが大人でも難しい！答えはこうた先生まで。



川合がお届けする

「センター」×「わくわく」＝？



「今回のわくわくは今が旬！？ドッジボールについて！」

先日、ドッジボールの公式試合「なごや市民スポーツ祭」に、スタンプドッジボールクラブの小学生チームが参加してきました！今年度のドッジボールクラブの小学生メンバーは、1年生から4年生の約30名が在籍中。その中から、「ジュニアの部」というリーグに、3チームがエントリーをし、結果は見事、Aチームが準優勝！リトルの部では、過去優勝経験はありながら、前回参加したジュニアの部では、1勝もすることができなかったで、自分自身ほっと一安心できる結果となりました。メンバーの皆さん、本当にありがとうございます！

そんな最高のメンバーは、2歳児または年少児の頃からセンターに通ってきている子どもたちです。2歳児から数えると、長い子で8年目の付き合いになります。8年。とても長いですね。そんな付き合いの長い子どもたちが、チームとして一つの目標に向けて協力し合い、切磋琢磨し、一緒に考えて着実に成長していく。そんな姿を、今でも近くで見れていることを嬉しく思い、決勝戦では試合を見ながら、気が付けば涙をこっそり流していました。笑

前回のリベンジを果たして、準優勝できたAチーム。予選は好成績を残しながら、決勝トーナメントは1回戦敗退。Aチームの決勝戦を、観客席から見ていたB.Cチーム。

それぞれ、感じるものがある1日になったと思います。その思いを、今後の行動にどう生かすのか、メンバーにとっての成長に繋がる大切な瞬間となります。そんな瞬間を、ドッジボールを通して、今後も感じていけたらと思います。Aチームおめでとう！

